分布：沖縄を除く全国

# アキノエノコログサ（　　イネ　　科）

学名：*Setaria faberi*（セタリア　ファベリ）

**秋の狗尾草**　　別名：猫じゃらし，ネコノオ，ケムシ，トトアワ，ネコノシッポグサ，ノアワ

## 主な生育場所

畑地，田畑の畦，休耕地，野原，路傍，空き地，土手など，やや乾いた場所に普通に見られる。日当たりの良い場所を好むが，樹下などの日陰でも生育する。湿った場所にはあまり見られない。

## 特　徴

一年草。茎は細く，基部は地を這って枝分かれし，節からも根を下ろす。葉は線形で，長さ30～40cmに達し，幅2cmほど。葉の表面に短毛が密生する。葉舌は毛状。7月～11月ごろに桿の先にアワに似た円柱状の穂をつける。穂の長さは5～12cm，幅0.7～1cmで先は垂れる。芒は長さ6～15mmで種子の基部から5～8本出る。

名前の由来：穂を狗（イヌ）の子のしっぽ（尾）に見立てて，イヌッコログサが転化してエノコログサに。また秋に目立つのでアキノエノコログサ。別名の猫じゃらしとは，穂に猫がじゃれつくことから。

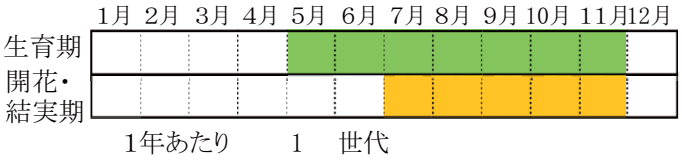
## ＜農業との関係＞

エノコログサの仲間は，畑地や果樹園でメヒシバと並んで夏～秋季の代表的なイネ科一年生雑草である。特にアキノエノコログサは他のエノコログサの仲間と比べて，大株となりやすく，大豆畑や不耕起畑で雑草害を引き起こすこともある。また，果樹園の草生管理下では，アキノエノコログサを中心とするイネ科一年生雑草が繁茂し，クローバーなどカバークロップの生育を抑制してしまうことがある。

種子は約3mmで芒（のぎ）は芒は長さ6～15mm

## ＜生活史＞

関東 地方の例(目安)




**＜類似種＞**エノコログサは全体小柄で，穂の先が垂れ下がることがなく，種子も約2mmと小さい。コツブキンエノコロやキンエノコロの種子は約3mmとアキノエノコログサと同じ程度だが，穂は直立し，芒も短い。オオエノコロの穂は長さ15cm以上に達する。

エノコログサ
※穂はやや細く先が垂れない

## ＜一言うんちく＞

日本を含む東アジア原産のアキノエノコログサは，1960年代にアメリカ大陸に帰化し，大豆畑等に蔓延して強害雑草となっています。最近の研究では，輸入飼料を経由して，ますます強害雑草化したアキノエノコログサが日本等に再び帰ってきている可能性が指摘されています。

## ＜人との関わり合い＞

エノコログサの仲間は，アワの原種や近い種類なので，アワと同様に食べられる。また，殻付きのままフライパンで煎ると，微小ながらポップコーンのようにして食べることができる。また，昔から芒が多く特徴的な穂は，子どもの身近な草花あそびの材料として利用される。例えば，毛虫に見立てたり，机の上などに置いて指1本で穂を押さえると前に進むことからレースをしたり，”猫じゃらし”の名のとおり，猫の顔の前で穂を揺らすと猫が穂に飛びつくようにして遊ぶ。

### ＜俳句や短歌への登場＞

【季語：秋】 ※えのこ草，猫じゃらし：エノコログサ一般

よい秋や犬ころ草もころころと（小林　一茶）
犬の塚狗子草など生えぬべし（正岡　子規）
秋の野に花やら実やらえのこ草（金子　楚常）
えのこ草道より下になりにけり（岩間　乙二）
香にふれよ菊のあたりの忘の子ぐさ（加藤暁台）
七草にもれて尾をふる猫じやらし（富安　風生）